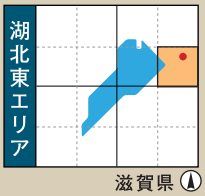
名勝
県指定

孤蓬庵庭園（こほうあんていえん）

浅井町上野　昭和36年4月26日指定



造園をはじめ、茶道や書画、和歌などで優れた足跡を残した小堀遠州。ひっそりとした人里離れた山麓にたたずむ孤蓬庵は、その小堀遠州ゆかりの寺です。孤蓬庵庭園は、趣の異なる二つの部分で構成され、山裾の緩やかな起伏を巧みに利用した幽玄な雰囲気に満ちた庭です。

当時のできごと	
1603年	徳川家康が江戸幕府を開く
1624年 ： 1644年 （寛永年間）	学問・朱子学、建築・桂離宮建立、日本画・俵屋宗達が活躍
1653年	野郎歌舞伎（現在の歌舞伎）が始まる

孤蓬庵庭園について

孤蓬庵は江戸時代初期の芸術家・造園家として著名な小堀遠州の子、政之が、承応2年（1653）、父の七回忌に際し、菩提を弔うため建てました。寺の名前は、遠州が京都大徳寺に造った同名の庵からとっています。

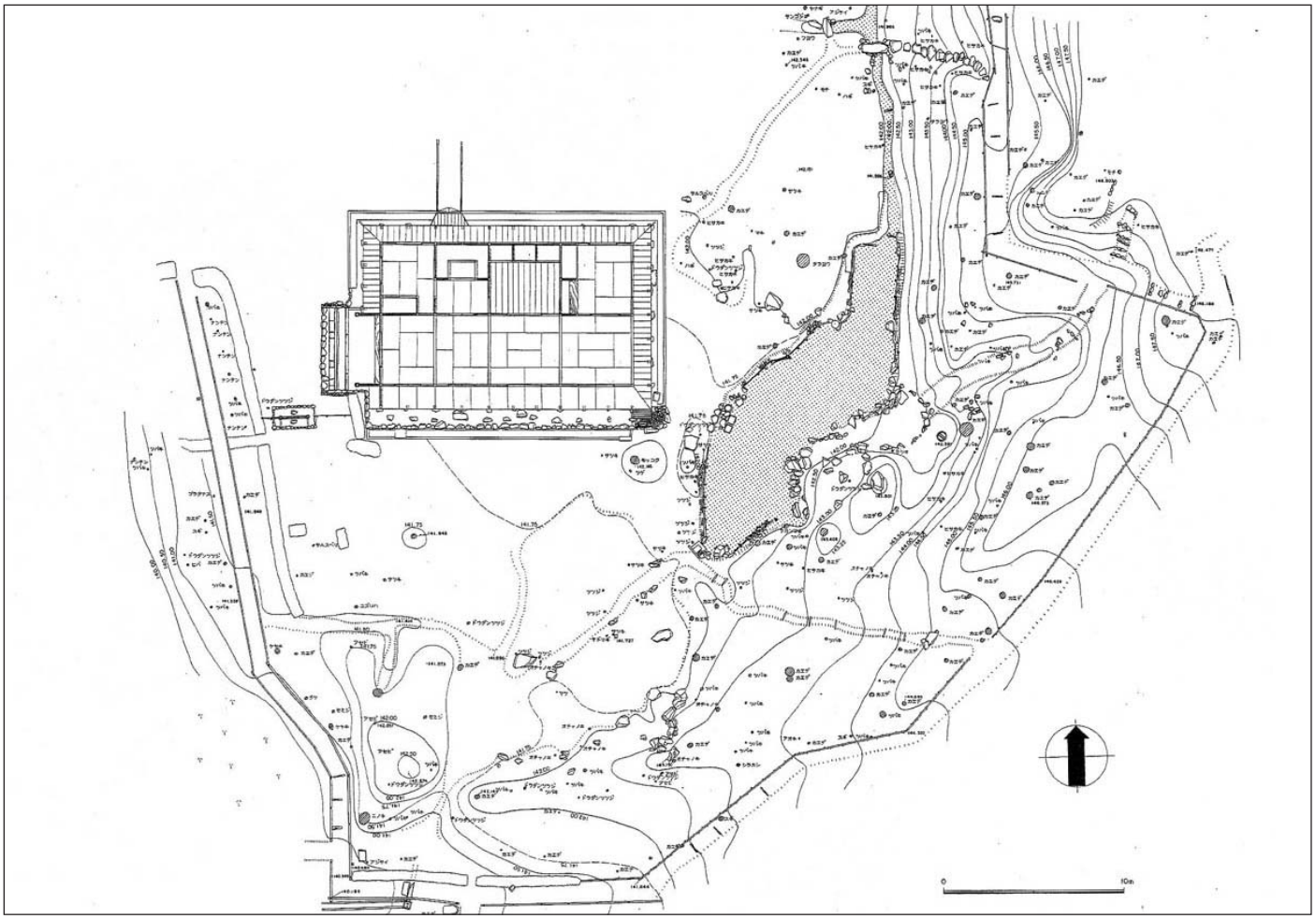
庭園は、書院の南と東に鉤（かぎ）型につながっています。南庭は、奥の自然林を背にし、枯滝を表す石組が景となっています。書院との間には広い枯池が広がり、ゆったりとした時の流れを感じさせる空間を構成しています。これに対して、東庭は池泉式の庭園で、琵琶湖をかたどった池と、自然の山の緩い傾斜をたくみに利用して、多数の変化に富んだ石が配され、南庭とはまた異なった趣があります。



東庭　池と石組



南庭　滝石組と枯池



孤蓬庵庭園実測図

遠州について

小堀遠州は、優れた文化人であり、かつ徳川家康に仕えた武人でもありました。父正次の跡を継いで備中1万2千石余を領し、のちに現在の浅井町に転封しました。千利休、古田織部とともに3大茶人と呼ばれた遠州は、大名の格にふさわしい「大名茶」を確立しました。建築家として、二条城や大阪城、江戸城西丸などの作事（さじ）にも参加しています。庭園では、南禅寺金地院、桂離宮庭園などを手がけ、その才能を存分に発揮しました。

孤篷庵は、明治以降、誰も住まなくなってしまい、ひどく荒れてしまいました。現在の本堂兼書院は、旧本堂が台風で倒壊した後、昭和40年（1965）に再建されたものです。

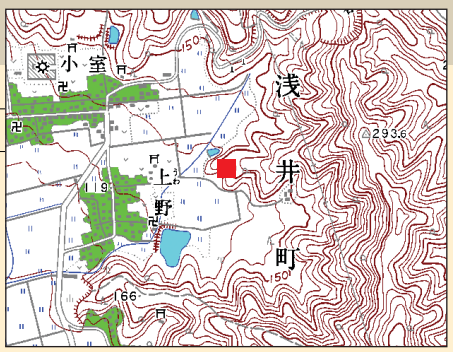
関連する文化財

池氏庭園（浅井町）	学習シートNo.103
名勝孤篷庵庭園（京都市）	大徳寺に残る小堀遠州の真作庭園

もっと深く知りたい

お市の里浅井町歴史民俗資料館　☎0749-74-0101　東浅井郡浅井町大依528

浅井町教育委員会　☎0749-74-4359　東浅井郡浅井町内保2490-1



孤篷庵庭園へのアクセス

JR北陸本線　虎姫駅下車
北陸自動車道　米原インター

【参考文献】〔滋賀県の庭園1～3〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月